



2005年3月6日(日)東海道を歩きました。1月16日(日)の「さった峠ハイキング」の続きで、由比から東へ向かいます。東海道の面白さを教えてくれる“東海道広重美術館”は残念なことに改築工事中で3月いっぱい休館でした。その美術館の前に気まぐれに現れる“名物屋台(?)”で桜えびのかき揚げをつまみ食いできてラッキー！お昼頃、蒲原宿に到着し、“宿場そば”というお店で天ぷらそばを食べます。もちろん、桜えびのかき揚げも入っていて800円は安い！蒲原宿を出ると、東海道は国道1号線から離れ、北へ向かいます。東名高速を見下ろし、上には大きな富士山が見え、思わずシャッターを押してしまいます。富士川を富士川橋で渡ったあたりで歩き疲れ、最寄り駅の身延線柚木駅でリタイア(?)。ここは、無人駅で、やって来た電車はワンマンカー。一駅で富士駅。東海道線で帰りました。小野勝彦さんと町田行弘の気ままな二人旅です。



またまた東海道二人旅

朝 7 時 30 分、小田急線町田駅に集合したのは、小野勝彦さんと町田行弘の 2 名でした。1 月の「さった峠ハイキング」と同じく二人旅です。乗る電車は、前回同様、町田駅発 7 時 37 分の小田急線で小田原駅着 8 時 31 分。小田原駅発 8 時 38 分の東海道本線で熱海駅着 9 時 2 分。9 時 7 分の沼津行に乗り、沼津駅着 9 時 27 分。9 時 30 分の浜松行に乗り換えて、由比駅に着いたのは 10 時 1 分でした。



重は、話ではなく絵を描き、さらに版画にすることで、より多くの人に東海道を楽しんでもらうことに成功したのです。東海道の歩き始めだった「さった峠ハイキング」では、“東海道広重美術館”までたどり着かず、今回は休館とは...、残念！気を取り直して出発します。

たまご餅...、天ぷらそば...

古い街並みの残る道を歩いてすぐ、小野さんの目に止まったのは“春埜製菓”という和菓子屋さん。ここで腹ごしらえをすることにしました。きなこ餅を買って店内で食べさせてもらいます。「今日はデコボンまつりで賑やかですよ」この和菓子屋さん、調べてみると大正 15 年創業で、“東海道中膝栗毛”に出てくる由比の名物さとうもちを“たまご餅”と名を変えて売っていて、これが大人気ということでした。たまご餅にすればよかった...

和菓子屋さんを出てすぐ、橋の下にデコボンまつりの会場があり、寄り道します。いろいろな農家がデコボンというみかんの一種を直売しているのです。心惹かれたのは、屋台の桜えびのかき揚げがのったそば。ただで試食という程度のものが 500 円とはちょっと高すぎると我慢して、うまいそばを求めて歩き始めました。

次にひっかかったのは“おもしろ宿場館”。2 階が駿河湾を一望できる“海の庭”という食堂、1 階にみやげ処、その奥が“お



お休み...

まず、“東海道広重美術館”を目指すはずだったのですが、駅に張り紙があり、3 月いっぱい改築工事のため休館中となっています。ショック！実は、町田は数年前、この美術館を訪れたことがあり、その時、江戸時代の旅の面白さを学んだ気がします。その日の食事にすら苦勞する江戸庶民にとって東海道を旅することは、一生に一度できるかどうかの夢とあこがれでした（もちろん価値観にもよるでしょうが）。隣近所でグループを作り、毎月少しずつお金を出し合い、それをためて、東海道を往復できるほどのお金ができれば、くじ引きで旅する人を決めるということも行われていたようです。そして、旅から帰った人の話を聞いて、その他の人も東海道の旅を楽しむわけです。広





もしろ宿場館”で有料(400円)です。“海の庭”のメニューを見て中に入り、みやげ処で小野さんは、“東海道を歩く”という本を買い、入場料をとる“おもしろ宿場館”はパスし、こうなると、食堂の価格も高いような気がしてそこを出ます。

まず、かき揚げ

そして、本陣跡に到着。ここに行きたかった“東海道広重美術家”があります。そして、向かいには、江戸時代から400年も続いている正雪紺屋(染物屋)があります。ここは、由比正雪の生家と伝えられています。由比正雪は、江戸時代の軍学者で幕府転覆を計画しました。これが、由比正雪の乱(慶安事件1651年)です。3代将軍家光の頃の江戸は、反乱もなく、武士(兵士)はいらないということで、武士のリストラ政策が進みました。後継者のいなくなった大名家は、お家断絶とし、潰してしまうのです。この結果、幕府に不満をもつ浪人が増えて行きます。由比正雪は、この浪人のパワーを利用して、天下を取ろうと企てるのですが、仲間の1人が幕府側に捕まり、計画がばれて、追いつめられて自殺します。この事件を機に幕府は、大名家の養子縁組を認めるなど、大名家の取りつぶしをゆるめ、浪人救済政策を行うようになったということです。正雪紺屋の横には、“由比本陣屋”という人気のお店がありま



す。桜えびなど、由比のお土産を売り、店頭では、桜えびのかき揚げを揚げて売っています。金・土・日・祝日の10時~16時の営業で、気まぐれに休むこともあるらしいのですが、行列ができるお店です。頭の中に桜えびのかき揚げそばがある私たちは、桜えびのかき揚げだけでも...と買って食べました。ひとつ150円。

宿場そばで大満足！

由比宿を出て、蒲原へ向かって歩き始めます。しばらくすると、左手に造り酒屋が現れました。見学とか試飲はなさそうなので通過します。東名高速をくぐると、右手に蒲原駅。ロータリーは広いのですが、何もない寂しい駅でした。ここから、ごく普通の風景の中を歩くこと30分、蒲原宿に到着します。目印は“西の木戸跡”、ここが蒲原宿の入口です。ここを左折して、突き当たりを右折すると宿場の街並みが現れます。1699年(元禄12)の大津波で蒲原宿は崩壊し、山側に新たに道を作ったためということです。



まず、目に止まったのは、志田邸の手前にあった“宿場そば”への小さな案内。どうやら右の方へ行くとあるらしいのですが、道はありません。江戸時代の商家跡の志田邸に入り、聞いてみます。志田邸の奥にそばを食べる場所があるのではと思ったからです。ここと“宿場そば”は何の関係もありませんでし



た。手前の駐車場のようなどころを進んで行くと、小さな小屋のようなそば屋があり、これが“宿場そば”。まもなく正午、ここで昼食とします。おすすめメニューの天ぷらもりそば(800円)を注文します。桜えびのかき揚げの他にもいくつかの天ぷらがあり、ボリュームがあります。驚いたのはわさびがそのままの形で出てきて、自分でおろすのです。味もよろしく、“うーん、これで800円は安い！デコボンまつりの500円のそばは詐欺(？)だ”



歩き疲れて、途中乗車

朝から、頭の中にかびりついてた目的を見事に(価格・味)達成し、このまま帰っても満足な気分？ですが、せっかくだから、歩けるところまで行きましょう。志田邸の脇に戻り、本陣跡、なまこ壁の民家、昔の洋館などを眺めながら蒲原宿を散策します。出口の“東の木戸跡”を過ぎて、しばらくすると東海道は左折し、上り坂になりました。坂を上りきったところで東名高速を下に渡ります。この時、右手に大きな富士山が見えて、思わずシャッターを切りました。関東では、すっきり晴れていないと富士山は見えないのに、このあたりでは、曇り空でも富士山が見えるんだなあ。

東海道新幹線のガードを越え、東名高速を上にくぐると、左に富士川町役場、その向かいに「間の宿」岩淵の一里塚があります。岩淵は、富士川の渡船場が設けられていたところ。もう少し先の富士川橋で、富士川を渡りました。時刻は14時15分、そろそろ疲れが...、そして、帰りの時間も気になるところです。無理して吉原まで歩くのはやめて、ここから一番近い駅で電車に乗ることにします。

最寄り駅は、JR身延線の柚木駅です。14時30分、柚木駅に着きます。なんとここは、無人駅でした。14時48分、富士行の電車がホームに入って来ました。電車はワンマンカーで、整理券を取るという方式でバスのようでした。一駅で富士、東海道本線に乗り換えて、小田原経由で帰りました。気ままな東海道ぶらり旅、次は、吉原から原、田子の浦をのんびり歩きます。





町田行弘	229-1103	神奈川県相模原市橋本 5-29-12 メゾン・アン・ソレイユ 201 042-773-7415
小野勝彦	194-0041	東京都町田市玉川学園 8-22-2 042-725-8403

